

序

『相関社会科学』編集委員会

本誌『相関社会科学』は、東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻（相関社会科学コース）が中心になって発刊している学術誌である。学際的・総合的な社会科学研究の創造と進展を目的とし、1990年の創刊から今回で第21号を迎える。

本号の構成はつぎの通りである。

まず本号の中心となる論文4編はいずれも一般公募によるものである。一般公募には14編の応募があった。例年と同じく、全ての論文に関して匿名の複数のレフェリーによる厳正な審査をおこない、この4編が掲載されることとなった。惜しくも掲載に至らなかった論文もふくめ、投稿していただいた方々、レフェリーの方々、そのほか本号の作成にご協力いただいた皆さまに厚く御礼申し上げたい。

公募論文に続いて、書評論文、調査報告論文をそれぞれ1編ずつ掲載した。特に後者は、相関社会科学コースが2009年度から取り組んでいる「ケアワークの諸相」をテーマとする学術調査の成果の一部である。この調査は、専門を異にする学生・研究者から組織されたチームによって、ケアワークの直面する諸問題を多角的に明らかにすることを目的としている。本号では2010年度におこなった、在日チベット人のケアワーカーを対象とした調査研究について報告する。両論文がともに、相関社会科学コースの日常的な活動や関心を知っていただく一助になれば、幸いである。